



長崎県立大学
UNIVERSITY OF NAGASAKI

長崎県立大学
国際社会学部
研究シーズ集
2025

～ 国際社会学部 目次 ～

職名	氏名	タイトル	頁
国際社会学部 国際社会学科			
教授	井上 佳子	「国民の熱狂」と戦争	1
教授	荻野 晃	中・東欧の国際関係の歴史的・理論的考察	2
教授	唐津 理恵	ナショナル・シネマの形成に関する研究	3
教授	河又 貴洋	グローカリゼーションの社会情報経済学	4
教授	祁 建民	中国の政治社会の動向に関する研究	5
教授	賈 曦	持続可能な観光につながる情報発信	6
教授	周 国強	大学における中国語教育に関する研究	7
教授	鈴木 暁彦	現代中国における大衆思想の多様化と政治的民主化の課題	8
教授	吉光 正絵	ライブ・エンターテインメント観光におけるデジタル体験とリアル体験の相互作用に関する研究	9
准教授	生田 和也	19世紀アメリカにおける可傷性の文学的表象	10
准教授	小原 篤次	技能実習生など移民研究	11
准教授	平見 健太	経済の安全保障化と国際経済法の構造変化に関する研究	12
准教授	村上 昂音	持続可能な観光を通じた長崎県の地域創生	13
准教授	門部 昌志	コミュニケーションに関する研究	14
講師	金弘 理志	教職に専門職性に関する研究:「女性らしさ」を問い直す	15
講師(特任)	ウィリアム・マクドナルド	ストレスと言語学習心理	16
講師(特任)	ブロンウィン・マクドナルド	Research on Trends of Etruscan and Roman Art (エトルリアおよびローマ美術の動向に関する研究)	17

「国民の熱狂」と戦争

研究分野:(社会科学)

キーワード:(地域社会・戦争・農村・メディア・教育)

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 井上佳子

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/inoue28/>

研究概要

戦争と「国民の熱狂」との関わりを研究。
当時の教育、平均的な所得水準と消費、農村を中心とした地域社会のつながり、メディアのありようなど、さまざまな角度から、国民が戦争に期待したものと、国民の熱狂が戦争の遂行に与えた影響について考察している。

産学連携の可能性(アピールポイント)

外部との連携実績等

中・東欧の国際関係の歴史的・理論的考察

研究分野: 国際政治学、国際関係史、安全保障論

キーワード: ハンガリー、外交、安全保障、体制転換(1989年)、NATO拡大

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 荻野 晃

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/ogiaki/>

研究概要

ハンガリーをはじめとする冷戦期の東欧の国際関係史、ハンガリーの体制転換(1989年)当時の国際環境と対外政策、体制転換後の中・東欧の国際関係を専門に研究してきた。具体的には、冷戦期のソヴィエト・ブロック内部で起こった政治危機へのハンガリーの対応外交、体制転換当時の人の国際移動が国際情勢に及ぼした影響、体制転換後の中・東欧の北大西洋条約機構加盟と国防軍改革、政軍関係について考察した。

さらに、近年は2015年の欧州難民危機へのハンガリーの対応、2010年代以降のハンガリーによるロシア、中国との関係強化をはかる「東方開放政策」、新型コロナウイルスの感染防止策をめぐって生じたハンガリーと欧州連合との対立、ウクライナ情勢へのハンガリーの対応についての分析を行っている。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- ①冷戦後の欧州と日本との安全保障政策の比較分析
- ②人の国際移動がもたらす国際情勢への影響
- ③新型コロナウイルス、ウクライナ情勢をめぐる各国の対応の比較分析

外部との連携実績等

冷戦後の中・東欧の民主的な政軍関係の確立、2015年の欧州難民危機当時の人の国際移動に関する講演

ナショナル・シネマの形成に関する研究

研究分野:文化人類学、メディア、ジェンダー研究

キーワード:比較文化、映画論、ジェンダー

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 唐津 理恵

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/rkaratsu/>

研究概要

映画研究において、日本映画といった括りを前提にする「ナショナル・シネマ」という概念、あるいは枠組み自体が批判的に再検討されるようになって久しい。1980年代後半以降に、英国のアンドリュー・ヒグソンやオーストラリアのステファン・クロフツらによって、映画における「ナショナルなもの」が問題とされるようになった。日本映画についても1990年代中頃には、これまで日本映画がナショナル・シネマとして研究される際に陥りがちであった文化本質主義の問題に加え、ジェンダーの視点の不十分さが指摘され、これらを克服するための新たな理論と方法の模索が必要となってきている。

議論されている「ナショナル・シネマ」という概念は、単に一国で製作され、その国の文化や国民性を反映していることを自明とするのではなく、むしろ映画を通して構築されるものとして研究の対象とする。このような観点を踏まえ、今後の研究においては、「ナショナル・シネマ」の形成についてジェンダーの視点を取り入れながら国際比較により明らかにしていく。日本と世界の映画を比較検証することによって研究のさらなる発展をめざしたい。

産学連携の可能性(アピールポイント)

外部との連携実績等

令和2年4月より、米国ジョンスホプキンス大学のBernadette Wegenstein教授、Lauren Mushro氏が率いるプロジェクト型の共同研究に携わった。本研究の一環として女性映像作家の河瀬直美氏、及びキム・ソヨン氏にインタビュー取材を行った。連携実績として、一章を執筆した書籍『Radical Equalities and Global Feminist Filmmaking – An Anthology』(編者Bernadette Wegenstein, Lauren Mushro) がVernon Pressより令和4年3月に刊行された。

担当章タイトル: Water Imagery and the Feminist Subversion of Womanhood in Naomi Kawase's *Still the Water* (2014) and Soyoung Kim's *Sound of Nomad: Koryo Arirang* (2016)



グローカリゼーションの社会情報経済学

研究分野:社会科学(社会情報学、情報経済学、経営情報学、国際関係論、情報文化論)

キーワード:ネットワーク経済論、地政経済学、産業組織戦略、地域コミュニティ開発

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 河又貴洋

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/t-kawamata/>

研究概要 ○「情報化のパラドックス」:情報化の進展に伴う社会経済問題の学際的研究
○「情報化の地政経済学」:情報ネットワーク社会経済の基盤であるインフラストラクチャー(固定資本)とインフォストラクチャー(制度・社会規範)に支えられながら、「市場」において動的平衡をもたらす供給(企業活動)と需要(コミュニティ活動)におけるネットワーク形成の政治文化経済学モデルを開発する。



産学連携の可能性(アピールポイント)

- ◆情報通信技術の社会的実装(企業戦略上の導入)に伴う課題と効果の検討
- ◆地域創生事業に関わるコンセプト開発／公共空間のデザインとその活用(公民館の利活用と子ども食堂事業支援—フードバンク／フードドライブ／フードロス対策)
- ◆青少年のインターネット利用に関わる情報リテラシー教育・社会的支援の指導
- ◆離島地域の文化振興と地方創生のネットワーク戦略(地域電子マネー構想等)についての助言
- ◆インバウンド需要に対する電子マネーやMaaS構想の展開 他

外部との連携実績等

- 「新上五島町人口減少対策のためのガイドライン作成報告書」(新上五島町との相互協定事業, 平成29年3月) 新上五島町との共同研究事業「関係人口創出・拡大等調査研究報告書<地域の“つながり”からの地域創生再考>」(令和5年2月)
- 「シーボルト食堂」(地域共生型子ども食堂)の実践(長与町との連携協定事業, 平成30年度～現在)
- 「青少年のインターネット利用環境づくりフォーラム in 長崎」(内閣府主催, 令和元年11月29日) コーディネータ
- 社会情報学会研究会「SDGsと社会情報学～持続可能な社会構築のための情報学を島から考える」(長崎県・壱岐市・対馬市後援, 令和3年11月13日)／「Workcationから考える島嶼社会情報学～Mobilityがもたらす職住革命」(五島市・新上五島町後援, 令和4年11月19日)ともに企画・司会

中国の政治社会の動向に関する研究

研究分野: 社会科学、中国農村、水利、農民工、日中関係、中国近代史

キーワード: 社会学、地域社会、ジェンダー、農村、貧困、水利、環境

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 祁 建民

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/qjmjp/>

研究概要

中国政治社会について研究する。農村社会構造の変遷、水利環境問題、貧富格差問題、日中農村社会の比較、日中関係などに取り組んでいる。

産学連携の可能性(アピールポイント)

環境技術の輸出、農産品輸出、観光資源の開発

外部との連携実績等

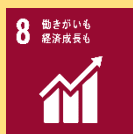
「水と権力ー中国の水利問題からオリエンタル・ディスポティズムの再検証ー」(基盤研究C、研究代表者、研究者人数1人、平成24～27年度)

持続可能な観光につながる情報発信

研究分野: メディア論、コミュニケーション論、観光学、地域研究

キーワード: 持続可能な観光、コンテンツツーリズム、リジェネラティブ・ツーリズム

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 賈 曦

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/jiaksi/>

研究概要

- ① 世界でサステナブル・ツーリズムやリジェネラティブ・ツーリズムの概念が受け入れられている中、メディアと自治体と連携するネットワーク・協力体制の構築に向けて研究に取り組む
- ② 地域資源を観光コンテンツとして創出 コンテンツツーリズム、アドベンチャーツーリズムの可能性
- ③ 観光データの活用した事業モデルの提示
- ④ 持続可能な観光につながる情報発信

産学連携の可能性(アピールポイント)

自治体、経済団体、観光振興団体、観光関連を中心とした民間事業者の参画により、官民の枠にとれない組織が、メディアコンテンツを活用し、地域のインバウンドを拡大することにつながる事が期待される。

外部との連携実績等

長与町国際交流協会 理事

大学における中国語教育に関する研究

研究分野：中国語教育

キーワード：中国文学、中国語文法、中国文化

貢献できるSDGsの区分：



国際社会学部 国際社会学科 教授 周 国強

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/zgg/>

研究概要

- ①中国語語彙——量詞・ネット用語などの研究
- ②中・韓・台文学の中における日本耽美派文学の影響
- ③日中文化比較

産学連携の可能性(アピールポイント)

外部との連携実績等

- ①県立沓崎高校中国語遠隔授業講師
- ②江戸時代において町人の美意識について(瀋陽航天航空大学・国際交流飢饉・北京日本文化センター)
- ③江戸時代の庶民思想と中国文化(遼寧省教育庁)
- ④儒学と日本の庶民思想(遼寧省社会科学院)

現代中国における大衆思想の多様化と 政治的民主化の課題

研究分野:現代中国論

キーワード:中国 政治 民主化

貢献できるSDGsの区分:

国際社会学部 国際社会学科 教授 鈴木 暁彦

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/a5suzuki/>

研究概要

21世紀段階の中国大陸は、社会思潮が多様化しかつ複雑化している。21世紀中国におけるより多様な言説を分析し、現実との社会的緊張関係を探ることは、現代中国認識を議論する研究での重要な視座である。中国の自己認識を分析し、中国の現状と将来につながる展望を探り、その研究結果を公表することで、広く社会一般に、参考となる視点と情報を提供できると考えている。

産学連携の可能性(アピールポイント)

特にありません

外部との連携実績等

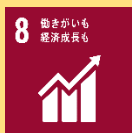
特にありません

ライブ・エンターテインメント観光におけるデジタル体験とリアル体験の相互作用に関する研究

研究分野: 社会学観光学メディア研究ジェンダー研究地域社会研究

キーワード: 社会学・地域社会・ジェンダー・ファンダム・デジタル文化

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 吉光正絵

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/my/>

研究概要

ポピュラー音楽ファンの観光行動に関する実証的な研究に取り組んできた。オンラインライブやファン・プラットフォームで得られるデジタル体験と、リアルなライブ参加体験がどのように相互作用し、観光行動に影響を与えるのかを明らかにした。特に、ライブ参加が「聖地巡礼」「地域間移動」などの観光目的となる点に着目し、持続可能な観光資源としてのライブ・エンターテインメントの可能性を多角的に探究してきた。

この研究は、観光・エンターテインメント・メディア業界との連携可能性が高く、特に地域振興・ツーリズム施策への応用が見込まれる。また、関連企業との協働によるファンマーケティングや、地域の文化資源としての音楽イベントの活用など、具体的な社会実装の場も考えられる。国際的にも、日本のライブ文化に特有の規律重視傾向や、東アジアを中心とした越境的なファンダム現象を切り口に、グローバルなライブ観光研究の先端を担う研究として発展性を有する。エンターテインメントを介した異文化間交流や世代・ジェンダー間の架け橋となる取り組みへの応用も考えられる。

産学連携の可能性(アピールポイント)

【クリエイティブ産業への貢献】

ファンたちのリアル×デジタルの複合的体験のニーズを明らかにすることで娯楽関連の知財を創造するクリエイティブ産業(観光・エンターテインメント・メディア他)に有用な知見を提供する。

【地域社会の多様性への寄与】

ライブ観光は特定の地域へのファンの訪問を促し、地元の文化・風土との接点を生み出す。とりわけ、ジェンダーの観点から女性ファンの移動や地域での安心感、共感形成などにも注目し、多様性の尊重が観光や地域文化の発展にどうつながるかを提案できる。

【国際比較・文化越境性の分析】

国際的な文化交流やソフトパワー戦略にも示唆を与えることができる。

外部との連携実績等

科学研究費補助金(研究成果公開促進費:学術図書)【課題番号:25HP5089】2025年度

「日韓中女性ファンの比較文化社会学—贈与とメディア環境—」

基盤研究C【課題番号:25K15677】2025年度～2027年度

「デジタル化によるライブ・エンターテインメント観光の変化と課題」

科学研究費補助金(基盤研究C)【課題番号:20K12405】2020年度～2024年度

「観光資源としてのライブ・エンターテインメントの「楽しさ」と課題に関する研究」

19世紀アメリカにおける可傷性の文学的表象

研究分野: 英語圏の文学・文化

キーワード: 弱さ、ケア、コミュニケーション

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 准教授 生田和也

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/ikut-kazu/>

研究概要

本研究は、19世紀アメリカ文学を「可傷性／脆弱性(vulnerability)」の観点から考察するものです。可傷性は21世紀になって学術的にも社会的にも多用されるようになった概念です。本研究では、理性的・自律的な「リベラルな主体」が政治・社会・文化の中心と想定されていた19世紀のアメリカ合衆国にあって、同時代の文学作品には相互依存的で可傷性を持つ「傷つきやすい主体」が多数登場することに注目しています。19世紀アメリカ文学作品における可傷性を(1)「他者と環境」、(2)「性・人種・階級」、(3)「ケアの倫理」の3つの観点から考察し、「傷つきやすい主体」の文学的表象を近代西洋思想に見られる「リベラルな主体」への文化的抵抗と位置付け、可傷性に基づいた新たな社会の在り方を希求する現代の学術的運動のなかで文学的想像力や文学研究が担う役割を示したいと考えています。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- 英語圏の文学・文化の理解
- 異文化理解

外部との連携実績等

- 科学研究費助成事業「19世紀アメリカにおける可傷性の文学的表象」(2022-25)
- 長与町まち・ひと・しごと創生推進会議委員(2024-2025)

技能実習生など移民研究

研究分野: 人・資本と地域を結ぶ総合研究

キーワード: 社会学・政治学・経営学・経済学

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 准教授 小原篤次

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/ohara2012/>

研究概要

- エリア: 大都市、地方、国内・海外と調査対象、研究拠点を経験してきました。
- アプローチ: 人・資本と地域を結ぶ総合研究。地理学、社会学、経営学、経済学など学際的に研究を行ってきました
- 研究テーマ: 女性の社会進出、外国人雇用など国際化(移民研究)、SDGsなど。ヒトの移動、カネの移動に関心を持ちながら、とりわけ、男女の社会進出格差(ジェンダーギャップ)、有給休暇、育児休暇も取れないといった、ワークライフバランスなど研究テーマととして関心をもっております。

産学連携の可能性(アピールポイント)

研究のほか、以下のような職歴を有しております。
上場企業社外取締役、米国系企業3社で5年間勤務(JPMorgan Chase & Co., Bloomberg L.P. and Alliance Benstein L.P.)。中国証券監督管理委員会・中国国家外貨管理局から適格海外機関投資家(QFII)の認可取得(メガバンク系の証券会社では日本初)。みずほフィナンシャルグループの香港現地法人みずほセキュリティーズアジアの初代株式調査長。

外部との連携実績等

神戸大学、早稲田大学、日本貿易会・経済産業省・JETROと関係が深い国際貿易投資研究所の研究員も兼務しております。
このほか、2008年06月 ~ 2009年10月 社団法人日本経済調査協議会『国家ファンド』(SWF)に関する専門委員会 専門委員■1994年04月 ~ 1995年03月 財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 海外通信員(フィリピン)

経済の安全保障化と国際経済法の構造変化に関する研究

研究分野: 国際法学

キーワード: 国際法、国際経済法、国際紛争処理

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 准教授 平見 健太

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/hira-kent/>

研究概要

現代における国際社会の変容が、国際経済法秩序にもたらす構造変化を研究しています。近年ではとくに、経済の安全保障化の動向に着目しています。

すなわち、異質な政治・経済体制を備えた中国の台頭による国際政治の不安定化や、デジタル革命などの技術革新による軍事用/民生用技術の相対化、さらには近時のCOVID-19の蔓延やロシアのウクライナ侵攻を契機とするサプライチェーンの寸断といった種々の要因を背景に、今日の国際社会では、経済と安全保障の接近・融合傾向、すなわち「経済の安全保障化 (securitization of economy)」が急速に進行しています。

かかる動向を受け、諸国の間では国家と市場の関係性に重大な変化が生じつつありますが(市場に対する国家介入の増大とその常態化)、こうした変化が、自由市場の理念を存立基盤とする既存の国際経済法にいかなる構造変化をもたらすのかを解明することが、本研究の目的です。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- ① 国際法が、個人や企業といった私的アクターの活動領域に及ぼす影響の分析
- ② 経済安全保障に関する国際社会の動向と法的リスクの分析
- ③ 国際経済紛争の予防・対策、とくに国際紛争処理(国家間で生じる国際裁判)への対応

外部との連携実績等

外務省「国際経済紛争処理研究会」委員、経産省「WTOパネル・上級委員会報告書研究会」委員、(独)経済産業研究所「現代国際通商・投資システムの総合的研究」委員、中曽根平和研究所「経済安全保障研究会」委員、国際経済連携推進センター「新たな通商ルール戦略研究会」委員および「ガバメントアクセスと貿易ルールに関する研究会」委員、国際経済交流財団「ルール志向の国際経済システム研究会」委員など。直近の外部資金獲得実績として、稲盛財団・2021年度稲盛研究助成など。

持続可能な観光を通じた長崎県の地域創生

研究分野: 社会学関連、観光学関連

キーワード: 地域創生、持続可能な発展、国際競争力、課題解決

貢献できるSDGsの区分:

「目標8:働きがいも経済成長も」、「目標9:産業と技術革新の基盤をつくろう」、「目標11:まちづくりを人間中心に」、「目標17:パートナーシップで目標を達成しよう」

国際社会学部 国際社会学科 准教授 村上昂音

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/mura-koon/>

研究概要

私は、観光を通じて地域づくりに貢献することを目指して研究をしています。地元の経済や産業には、若者流出や過疎化など、さまざまな課題があります。それらをどう乗り越えるか。地域の人々と向き合いながら、その可能性を探っています。とくに関心を持っているのは、地方をはじめ離島や半島といった、暮らしの条件が厳しい地域です。そこにこそ、観光の力が生きる場面があると思うからです。自然や文化、地域に根ざした人の営み。それらをどう伝え、どう外とつなげていくか。小さな事例を積み重ねながら考えています。現場に根ざし、実際の声を聴きながら、学生と一緒にかたちをつくっていく。そうした研究でありたいと思っています。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- ・ 地域の現状分析と課題抽出: 地域の詳細な分析を行い、直面する課題を特定。
- ・ 国内外の関連事例の調査: 成功事例を調査し、それらを参考に地域振興策や持続可能な戦略を構築。
- ・ 専門家や地域関係者との協力: 地域の企業や自治体、海外との連携を通じて、実際の課題解決につながる施策を提案。

外部との連携実績等

- ・ 2016年10月ダイバーシティ事業「女性研究者による研究シーズ発表会」TAMA産業活性化協会主催(於中野プラザ・東京都) 共催(東京農工大学、東京外国語大学、その他連携機構)「中国における公共サービスの民間委託」中野プラザ・東京都 口頭(招待・特別)国内会議
- ・ 2024年4月より五島市地域公共交通活性化再生協議会会員に就任

コミュニケーションに関する研究

研究分野: 思想史、社会学、メディア研究、コミュニケーション研究

キーワード: 記号媒体、媒介、記号過程、語用論

貢献できるSDGsの区分:

国際社会学部 国際社会学科 准教授 門部昌志

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/mombe/>

研究概要

意味の媒体から出発しつつ、メディアとコミュニケーションの基礎を探究する。パースによれば、記号は、人の心の中に、等値な記号ないし発展した記号を創り出す。はじめの記号が創り出したその記号のことを解釈項と呼ぶ。この解釈項はまた記号となるというように、無限に続く。つまり記号と解釈項は無限に連鎖するのである。このような、記号と解釈項の連鎖は、ヤコブソンにおいては、言語内翻訳と呼ばれていた。通常の翻訳は言語間翻訳と呼ばれるのに対して、一つの言語内部における言い換えは言語内翻訳と呼ばれた。ヤコブソンにおける言語内翻訳は、パースにおける記号と解釈項の連鎖に対応するが、無限の過程とは想定されていない点には留意する必要がある。

産学連携の可能性(アピールポイント)

外部との連携実績等

長与町の新しい図書館を想う会会報への寄稿5篇(「国境の街で—ストラスブール国立大学図書館」第9号、2005年;「砕かれたガラスの記憶—ある図書館人の文化運動」第12号、2005年他。)

教職に専門職性に関する研究:「女性らしさ」を問い直す

研究分野:教育哲学

キーワード:教職の専門性、社会理論、ホックシールド

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 講師 金弘理志

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/kane-masa/>

研究概要

知識社会が到来し、あらゆる職業が専門職化する中で、教職の専門職性が少しずつ失われ始めている。教育哲学の仕事は、現代にも通ずる教職の専門職性を明らかにすることである。しかし、それはまだ十分に明らかになっていない。専門職に期待のまなざしを向け、どの職業もこぞって専門職化を目指していた時代は過ぎ去り、ある職業を専門職化させること政治的キャンペーンであることが指摘され始めている。本研究は、これら専門職性論の系譜において政治的キャンペーンに絡み取られることのない専門職性を明らかにすることを目指す。その際、注目に値するのが「女性らしさ」である。元来、教職を含め、看護や介護の現場で働く職業人のうち女性が占める割合は高かった。これら仕事は、再生産労働の延長線上の位置づけられ、女性であれば誰でも簡単にできる職務とみなされがちであった。こうしたまなざしは女性職の専門職化を妨げてきた。本研究は、「女性らしさ」を相対化するための理論・思想として、ジェンダー社会学者のアーリー・ホックシールドの社会理論に目を向け、専門職性論における彼女の理論の可能性を探っていく。

産学連携の可能性(アピールポイント)

・教師であることの存在論的不安を抱える現職教員へのセミナーの開催

外部との連携実績等

ストレスと言語学習心理

研究分野:社会科学、心理学

キーワード:ストレス、学ぶ、スマートウォッチ

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 講師(特任) ウィリアム マクドナルド

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/macdonald/>

研究概要

最近完了したウェアラブルデバイス(この場合はスマートウォッチ)を使用した研究(MacDonald, 2022)では、ストレスが学習において重要な役割を果たす可能性が示唆されています。この研究では、言語学習におけるストレスとその役割を扱い、高いストレスと低いストレスの両方を示した学習者の両方が、有害な学習結果を経験したことが示唆されました。

このことは、理論的にも実践的にも多くの示唆を与えており、今後検討する必要があります。これまでの研究では、Horwitzら(1986)の研究に基づいて「言語学習不安」に焦点を当て、ストレスを軽減することを目標としたアプローチを奨励していましたが、今回の新しい研究では、それが望ましくない可能性があり、学習者に不利益をもたらすだけでなく、健康上の結果にもつながる可能性が示唆されました。

さらに、ウェアラブルデバイスを使用した研究手法は、これらの技術が低所得国にとってどれだけ利用しやすいか、また、高所得国がこれらの新しい研究手法から生じる研究を支配する可能性について、多くの倫理的問題を提起しています。

産学連携の可能性(アピールポイント)

現在、ウェアラブルデバイス技術は、Garmin、Fitbit、Appleなどの海外企業が独占しているように見えますが、日本でも関心が高まっている分野であり、幅広い学問分野からの産学連携の可能性があると思われます。

外部との連携実績等

上記の問題は、SAJU(南アフリカ-日本大学フォーラム)会議でのプレゼンテーションで議論するために提出されており、この分野での将来の研究に関して何らかの国際協力が行われることが期待されます。

Research on Trends of Etruscan and Roman Art (エトルリアおよびローマ美術の動向に関する研究)

研究分野: Classics(古典)、Art History(美術史)、Archaeology(考古学)、Ancient History(古代史)、Cultural Studies(文化研究)

キーワード: Funerary Art(葬送美術)、Mythology(神話)、Sculpture(彫刻)、Iconography(イコノグラフィー)、Cultural Heritage(文化遺産)

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 講師(特任)Bronwen MacDonald

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/bron-macd/>

研究概要

This research analyzes the iconography of torches in Etruscan and Roman funerary art, exploring their symbolic meanings and impact on cultural heritage. Using visual analysis, archaeological data, and historical texts, the study investigates the use and evolution of torch imagery. Preliminary findings suggest torches symbolized transition and illumination in both cultures, highlighting cross-cultural influences and the blending of artistic techniques and motifs.

この研究は、エトルリアおよびローマの葬送美術における松明のイコノグラフィーを分析し、その象徴的な意味と文化遺産への影響を探ります。視覚分析、考古学データ、および歴史文献を使用して、松明の使用と進化を調査します。初期の発見は、葬送美術における松明が、エトルリアおよびローマ文化の両方で移行と啓示の象徴として機能していたことを示唆しています。この研究は、松明のイコノグラフィーの文化間の影響と、美術技術およびモチーフの融合を強調しています。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- **Collaborate with Museums:** Curate exhibitions of Etruscan and Roman art to increase public awareness. (美術館と提携してエトルリアおよびローマ美術の展示を企画し、古代美術への認識を高めます。)
- **Develop Educational Programs:** Create courses on ancient art, emphasizing symbolic and cultural significance. (教育プラットフォームと連携して、古代の象徴的・文化的重要性を強調するコースを開発します。)
- **Consulting for Conservation:** Provide expertise to preserve and restore Etruscan and Roman artifacts. (エトルリアおよびローマの遺物を保存・修復するための専門知識を提供します。)

外部との連携実績等

- **Nepos' *Life of Hannibal* Digital Renewal Project for South African Students:** Leading the digitization of a 1994 multilingual Latin textbook at Stellenbosch University. (南アフリカの学生のためのネポス『ハンニバル伝』デジタルリニューアルプロジェクト: 1994年の多言語ラテン語教科書のデジタル化をリード。)
- **South African Classical Antiquities (SACA) Database:** Cataloging antiquities in South Africa to enhance online accessibility. (南アフリカ古典古代物データベース (SACA): 南アフリカの古物コレクションをカタログ化し、オンラインでのアクセスを向上。)